

は じ め に

子どもにとっての読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、そして創造力を豊かにし、人生をより深く生きていくうえで欠くことができないものです。

しかしながら、子どもを取り巻く環境の変化は著しく、スマートフォンの普及やコミュニケーションツールの多様化といった情報化社会の進展が子どもの読書ばなれ・読書環境に影響を与えていることは否定できません。

そのような社会であるからこそ、読書が大きな意義をもってくるのではないのでしょうか。乳幼児期からの読み聞かせで、人と人、言葉と言葉のふれあいを感じながら豊かな情操を身につけていくこと、また学校で読書を通して言語力を身につけ、自らの力で課題を解決していくこと、また地域社会で幅広い世界を知り、自らの将来に活かしていくこと、そのすべてが大きな糧となるはずです。

いまこそ周りにいる大人が読書の大切さを認識し、子どもが将来にわたって読書習慣を身につけ、人生をより豊かに生きていけるよう導いていかなければなりません。

これまでの「久御山町子どもの読書活動推進計画」の一次計画、二次計画の取組から見えてきた久御山町の子どもの読書の実態を踏まえ、ここに「久御山町子どもの読書活動推進計画（第三次推進計画）」を策定し、家庭・学校・地域が効果的に連携し、子どもの読書活動がさらに充実したものとなるよう取り組んでまいります。

平成 31 年 3 月

久御山町教育委員会 教育長 山本 悦三

第1章 趣旨と基本的な方針

1 推進計画策定の趣旨

国においては、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行されるとともに、平成14年8月には同法に基づく「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を、平成20年3月に第二次基本計画、平成25年5月に第三次基本計画、平成30年4月には第四次基本計画を策定されました。

また、京都府においては、平成16年3月、同法第9条第1項の規定に基づき、「京都府子どもの読書活動推進計画」を、平成22年1月に第二次推進計画、平成27年1月には第三次推進計画を策定されました。

本町では、国・府の計画に基づき、子どもの読書活動の意義を踏まえ、平成19年3月に「久御山町子どもの読書活動推進計画」を策定し、その後、平成25年3月には第二次推進計画を策定し、子どもが進んで読書に親しみ、生涯にわたって読書習慣を身に付けることができるように家庭・学校・地域が効果的に連携して、発達段階に応じた子どもの読書活動の推進に取り組んできました。

この推進計画の取組の成果と課題を明らかにしたうえで、子どもの読書活動がさらに充実したものとなるように、「久御山町子どもの読書活動推進計画（第三次推進計画）」を策定するものです。

2 推進計画の基本方針

本計画を策定するにあたり、子どもの読書活動の実態を把握するために、平成23年に引き続き、平成29年においても「子どもの読書活動に関するアンケート調査」を実施しました。これらの結果を検証し、久御山学園が目指す「言語力の育成」に読書が大きな役割を果たすべく、今後、本町が子どもの読書活動を継続的に推進していく基本的な考え方や取組を示し、家庭・学校・地域が効果的に連携して、社会全体で読書活動推進の取組を展開していくことを基本方針とします。

計画期間は、2019年度（平成31年度）から6年間を目途としています。

3 子どもの読書活動の実態把握

推進計画の策定に当たっては、子どもの読書活動の実態を把握するとともに、課題を明らかにしていく必要があるとの観点からアンケート調査を実施しました。

調査として、町内のこども園（調査時は幼稚園、保育所）の3・4・5歳児の保護者を対象とする「家庭における子どもの読書活動に関するアンケート調査」と小学校4年・6年及び中学校2年を対象とする「児童・生徒の読書活動」の2種類を実施しました。

そして、今回初めて、乳児期から家庭における読書活動について参考にするため、町の乳幼児健診である3・4か月児健診時に実施しているブックスタートについてのアンケートも活用することとしました。

これらの結果をもとに、「久御山町子どもの読書活動推進計画策定委員会」において、第二次推進計画と比較して、それぞれの領域ごとに子どもの読書活動や読書量等について現状及び傾向などを把握し、子どもの読書環境の充実のための検討を重ねました。

第2章 第二次推進計画期間における成果と課題の検証

子どもの読書活動を推進するため、第二次推進計画に基づき、計画的に事業を進めてきました。

子育て支援センター「あいあいホール」やこども園（第二次推進計画では幼稚園・保育所でしたが、現在の名称のこども園で統一記載しています）では読み聞かせを定期的に行い、子どもが本に親しむ活動に努めました。また、学校では朝読書等の習慣化を図り、読書週間等を中心とした様々な取組を実施しました。町立図書館においても、「おはなし会」等において、子どもが様々な図書に出会う機会の提供に努め、また蔵書の充実を図ってきました。

しかしながら今回実施したアンケート調査と前回（平成23年）アンケート調査を比較すると、家庭での読み聞かせの頻度は多様化し、読書に対する取組や関心等が薄れてきているようです。また、児童・生徒の不読率も上がる結果となりました。

そのような中でも、今回初めて参考資料とした乳児のアンケートでは、絵本の読み聞かせを週2、3回以上定期的に行っている家庭がほぼ7割にのぼることがわかりました。また、こども園在園児を持つ9割以上の保護者が、子どもは読み聞かせが「好き」「どちらかというところ好き」と感じておられること、また、小学校4年生・6年生の約8割、中学2年生の7割近くが読書に対し「好き」「どちらかというところ好き」と感じているという結果も出ています。

読書（読み聞かせ）を好意的に感じていながらも、不読率が上がっていることは、ゲームやインターネットをはじめ、スマートフォンの普及やコミュニケーションツールの多様化といった情報化社会の変化が、子どもの読書環境にも影響を及ぼしていることは否定できません。

家庭・学校・地域社会において、子どもの興味・関心に寄り添いながら、いかに読書を習慣化していくかといったことが課題にあげられます。

こうしたアンケート調査結果とあわせ、第二次推進計画において、施策の展開としてあげた内容を下記のとおり検証しました。

1 家庭における読書活動の推進

(1) 家庭へ推進した取組

①読み聞かせ等を通じて、親子で本とふれあう

【成果】

- ・子育て支援センター「あいあいホール」では、図書コーナーを設置することにより、乳幼児が自由に絵本を手に取り親しむことで、親子で本とふれあうことの大切さを伝えることができました。

- ・こども園では、家庭で読み聞かせが行われるよう絵本の紹介や貸出を行い、スキップを図ってもらうことができました。

【課題】

- ・乳幼児期から絵本に親しみ、読書の習慣化につながるきっかけ作りをすることが必要です。

②保護者等も一緒に読書に取り組む

【成果】

- ・保護者等から家庭で読んでいる絵本を、またこども園からも子どもが興味のある絵本をお互い伝え合うことで、連携を図りながら読書活動に取り組んでもらうことができました。

【課題】

- ・子どもの興味に寄り添い、保護者自身も本に興味をもってもらう工夫が必要です。

③さまざまな絵本に出会う機会の設定

【成果】

- ・子育て支援センター「あいあいホール」では、図書コーナーを設置し、季節に応じた絵本の紹介や月刊絵本の提供を行いました。
- ・子育て支援センター「あいあいホール」・こども園・学校において町立図書館の「おはなし会」や「図書館講座」のチラシの配布やポスター掲示により読書活動の啓発を図りました。

【課題】

- ・親子で書店や図書館に出かけるなど、保護者等の読書活動に対する意識向上を促すと共に、「講座」等へ参加しやすいよう工夫することが必要です。

(2) 子どもが読書に親しむ活動支援への取組

①子どもが絵本に親しむ機会を増やすため、町関係機関はより一層連携・協力して、それぞれの事業において子どもや保護者等へ読書活動の理解と関心を深める取組に努めます

【成果】

- ・子育て支援センター「あいあいホール」では、町立図書館と連携し、毎週絵本の読み聞かせの時間を設定し、機会を充実させました。
- ・子育て支援センター「あいあいホール」・こども園・学校・町立図書館は連携・協力し、子どもが本に親しむ機会を充実させました。

【課 題】

- ・絵本の選び方、与え方、読み聞かせの方法など、引き続き保護者にアドバイスができる体制の充実が必要です。

②「ブックスタート」事業を町関係機関とボランティアが連携・協力して実施します

【成 果】

- ・「ブックスタート」事業で、町立図書館司書やボランティアによる絵本の読み聞かせを通し、保護者に子どもが絵本を楽しむ姿を見てもらい、絵本を介して子どもの心を育むことの大切さを伝えました。あわせて、子育て支援センター「あいあいホール」や町立図書館の紹介も行いました。
- ・絵本を無償配布することで、絵本を身近に置き、親子のふれあいを通して絆を深めてもらうことができました。

[配布人数]

平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
116 人	112 人	131 人	117 人	108 人

【課 題】

- ・新たなボランティアの養成・確保が必要です。

③子育て支援事業等で、年齢や発達段階に応じた絵本の紹介や読み聞かせ等、本にふれる機会の提供に努めます。また、読書の重要性を理解し、家庭で実践できるような情報交換の場となるよう努めます

【成 果】

- ・子育て支援センター「あいあいホール」で町立図書館司書による「絵本を楽しむ日」等を設定することにより、年齢や発達段階に応じた絵本にふれる機会を持ちました。読み聞かせを通じて親子で本とふれあうことを目的として取り組む中で、保護者が子どもに語りかける姿も見えてきました。
- ・子育て支援課が実施する「パパ&ママ教室」に町立図書館司書が出向き、妊娠期間におすすめの絵本の読み聞かせや紹介を行いました。また、町立図書館の利用の案内や啓発ができました。

[参加者]

区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
親子ひろば	12 回 (73 組) 157 人	12 回 (33 組) 70 人	12 回 (32 組) 68 人	—	—
絵本を楽しむ日	34 回 (198 組) 464 人	36 回 (165 組) 391 人	38 回 (217 組) 479 人	43 回 (226 組) 489 人	49 回 (271 組) 590 人
パパ&ママ教室	25 人	43 人	50 人	31 人	98 人

※ 町立図書館司書の絵本の読み聞かせは、平成 28 年度から「親子ひろば」を「絵本を楽しむ日」に統合

※ 「パパ&ママ教室」は平成 29 年度から参加対象を拡大

【課 題】

- ・「絵本を楽しむ日」等では、子どもだけでなく保護者の方も一緒に参加し、楽しい時間を共有することが不十分でした。

④乳幼児を持つ保護者等の読書相談に努めます

【成 果】

- ・子育て支援センター「あいあいホール」では、保護者等との気軽な会話の中で、絵本の読み聞かせなどの相談に応じました。

【課 題】

- ・さらに様々な機会をとらえて保護者等と情報交換し、絵本や読み聞かせの相談に応じることが必要です。

⑤新たな読書ボランティアの養成を図り、読書活動の支援体制を充実します

【成 果】

- ・町立図書館では子どもの読書活動の推進のための講座を開催し、ボランティアの養成を図りました。

【課 題】

- ・保護者や地域の方に講座への参加を促し、読書ボランティア活動への理解を深めることが必要です。

2 こども園・小・中学校における読書活動の推進

(1) こども園・小・中学校における取組

ア こども園

①こども園では、親子で読書に取り組めるよう、絵本の貸出を行います

【成 果】

- ・各こども園では週1・2回又は、好きな時に絵本の貸出を行いました。親子で絵本にふれることでコミュニケーションが図れ、心の安定にもつながりました。

【課 題】

- ・全ての家庭で絵本の貸出が行われるよう、より一層啓発していくことが必要です。

②絵本コーナーの展示の工夫や内容・資料のより一層の充実を図ります

【成 果】

- ・絵本コーナーでは、机や椅子を準備し、自由に手にとって絵本を見たり読んだりできるように環境を整えました。

【課 題】

- ・展示の工夫や内容の充実が必要です。

③保育教諭は、教材研究及び研修等を通じて資質向上に努めます

【成 果】

- ・各自で研修に参加し、読み聞かせを工夫するなど教材研究に努めました。

【課 題】

- ・保育教諭自身をもっと子ども達の興味・関心・何を経験させたいか等を考えて、絵本を選ぶことができるよう、研修会を通じ様々な絵本を知ることが必要です。

④読み聞かせ等にお話ボランティアの支援を受けます

【成 果】

- ・お話ボランティアや小学校教諭の方に来てもらい、読み聞かせをしてもらいました。

【課 題】

- ・乳児クラスにも絵本の読み聞かせの機会をつくる必要があります。

⑤こども園児の町立図書館利用の促進に努めます

【成 果】

- ・町立図書館からのチラシの配布やポスターを掲示することで、読書活動の啓発を図りました。

【課題】

- ・ 町立図書館の利用頻度は各家庭により様々であるため、保護者の読書活動に対する意識が高まるような啓発が必要です。

イ 小・中学校

全校一斉読書

①「朝読書」等、一日の学校生活の中で定例的に読書をする時間を設け、読書の習慣化を図ります

【成果】

- ・ 各小学校で読書の時間を帯で位置づけ、読書の習慣化を図った結果、読書の幅を広げることができました。
- ・ 読書により、落ち着いて次の学習に取り組むことができました。
- ・ 担任も一緒になって読書をするすることで、児童・生徒もより集中して読書に取り組むことができました。

【課題】

- ・ 図書を手にして静かに向き合う時間は確保できているものの、図書の内容については一考が必要です。
- ・ 朝読書（一斉読書）以外の読書活動にもつながるような取組が必要です。

②発達段階に応じた選書の方法等、読書の質を高める読書指導を充実します

【成果】

- ・ 国語の教科書で紹介されている図書や各教科等で調べる際に使用する図書については学校図書館に配架できるよう努め、読書指導に活かしました。
- ・ 図書だよりで朝読書の方法や図書の選び方に関する案内を行いました。

【課題】

- ・ 児童・生徒の読書分野が広げられるような取組が必要です。
- ・ 内容の理解等、読書の質をさらに高める啓発・指導が必要です。

環境整備

①子どもの興味や関心に応える魅力的な学校図書の充実に努めます

【成果】

- ・ 選書会の実施や、リクエストボックスを設けるなど、児童・生徒のニーズに応える機会を増やしました。
- ・ 話題性や季節感のある図書をコーナーに置き、興味が持てるよう工夫しました。

- ・中学校では、電算化された学校図書館システムを図書委員会活動にも役立て、学校図書館のスムーズな運営に努めました。また、京都府に関する図書を購入するなど、蔵書の充実を図りました。

【課題】

- ・読みたい図書を見つけやすい配架や、自分に合った図書を自ら探してみたいような展示の工夫が必要です。
- ・選書会に限らず、広く児童・生徒の興味や関心に応え、より意欲を高める取組が必要です。

②本を読みたくなる学校図書館を目指し、掲示物等で読書の意欲を高める工夫をします

【成果】

- ・学校図書館に関するポスターを作成し、季節ごとの展示替え、新着図書や先生のおすすめの図書コーナーを設ける等、児童・生徒が訪れたいと思える学校図書館運営を行いました。
- ・新入生にむけたオリエンテーションを実施しました。

【課題】

- ・司書教諭や学校司書だけでなくボランティアの協力を得て、より充実した環境設定をしていくことが必要です。

③夏季休業中に学校図書館を開放する等、読書環境を整えます

【成果】

- ・夏季休業中に開放日を設定し、貸出業務、学習スペースの確保を行いました。
- ・長期休業中に限って、規定の貸出冊数を増冊し、休業中でもより多くの図書を読めるようにしました。

【課題】

- ・学校図書館開室日に多くの児童が来館する工夫と啓発が必要です。

読書への啓発

①図書だよりを発行し、読書案内や読書に関する情報を提供します

【成果】

- ・新着図書情報や取組の案内を記載すると、それをきっかけに来館する児童が増加しました。
- ・図書だよりを毎月発行するよう努め、情報提供することができました。

②読書に対する意欲を高める取組を充実します。また、保護者等にも図書への関心を高めてもらえるよう働きかけます

【成 果】

- ・ 4月23日の子ども読書の日や夏季休業中に親子読書の宿題を出し、親子で読書を楽しむ機会を設けました。
- ・ 蔵書に関するしおり作成など、様々な図書に関心をもてるような取組を実施しました。
- ・ 目標冊数を設定し、読書への意欲向上を図りました。

【課 題】

- ・ 読書に興味ある親子には楽しい取組となっていますが、それが全体に広がる工夫が必要です。
- ・ 図書だよりを通じて保護者への積極的な案内や地域の方にも関心を持ってもらう工夫が必要です。

③学年に応じた課題図書や「おすすめの本」を提示し、発達段階に応じた本を選び、読めるような工夫をします

【成 果】

- ・ 「読書の記録」を作成し、その見開きに各学年おすすめの図書を載せて啓発しました。
- ・ 読書感想文コンクールの課題図書と関連させ、それぞれの発達段階に応じた図書を選ぶことができるような展示をしました。

授業との関係

①学習に関する図書を指導過程で計画的に位置付け、それらの本の紹介や読書感想等に取り組み、活用します

【成 果】

- ・ 学習に関連する図書は町立図書館の団体貸出を利用し、手に取りやすいところに置いて活用しました。
- ・ 小・中学校の学校図書館と町立図書館が連携し、学習に必要な図書の充実を図りました。

【課 題】

- ・ 教科の配列が学年で重複することが多く、複数の学級で利用するための工夫が必要です。
- ・ 学校図書館と町立図書館のさらなる連携を目指し、計画的な取組が必要です。

②「おすすめの本」の紹介や心に残った本の感想の発表等を通じて、言語力の育成に努めます

【成 果】

- ・国語の教材から推薦図書を紹介し、夏休みの読書感想文に取り組むなど、文章を作る力を養うことで、言語力の育成につながりました。

【課 題】

- ・読書感想文に苦手意識を持つ児童に対し、指導の工夫が必要です。

③学習に活用できる「図書リスト」を作成します

【成 果】

- ・小学校では、図書リストを作成しました。

【課 題】

- ・小学校では、作成した図書リストを教員相互で共有し、活用することが必要です。
- ・中学校では、図書リストの作成にむけて、各教科と学校図書館のさらなる連携が必要です。

教職員の研修等

①小・中学校で計画的に研修を実施し、読書の重要性の共通理解を図ることが重要です

【成 果】

- ・教職員向けの図書だよりを発行し、教職員の理解を図るとともに、情報を共有しました。

【課 題】

- ・図書館の利活用について、より一層理解を促す研修が必要です。またすべての学校で全体研修を実施できるよう計画的な取組が必要です。

②読書に関するさまざまな手法や効果的な図書活用等の研修に取り組みます

【成 果】

- ・町立図書館で団体借受する図書の選書や教職員向けの選書会を実施し、幅広い分野の図書の活用に役立てることができました。

【課 題】

- ・読み聞かせやブックトーク、アニメーションの手法で児童・生徒の読書意欲を喚起するなど、読書分野を広げる実践的な手法の研修が必要です。

各校の図書委員会等、児童・生徒が主体となる活動

①読書月間及び月間の目標冊数の設定などの取組を行います

【成 果】

- ・中学校では、秋の読書週間には図書委員会が主体となって取組を実施しました。
- ・学年ごとに図書の冊数を掲示し、各自目標を設定した取組を実施しました。

【課 題】

- ・児童・生徒全体の読書活動の充実に向けた取組が必要です。

②新刊本の紹介、購入図書希望調べ等、図書委員会活動の充実を図ります

【成 果】

- ・小学校では、図書委員会によるおすすめの本の紹介やキャンペーン、読書ラリーなど各校工夫した取組を行いました。
- ・中学校では、図書委員会発行の図書だよりを作成し、テーマ展示の紹介等、学校図書館と連携することができました。

P T A・地域等との連携

①P T Aと連携して、読書の大切さ等を啓発します

【成 果】

- ・P T Aにも選書会の案内を行い、参加していただきました。
- ・図書だよりを通して読書の大切さを啓発しました。

【課 題】

- ・P T Aに対する読書や読み聞かせの楽しさを伝える直接的な機会の設定が必要です。

②読み聞かせ等には、地域のボランティアや町立図書館職員の積極的な支援を受けます

【成 果】

- ・小学校では、地域の方や町立図書館司書から、読み聞かせやブックトーク、ストーリーテリングの実施の支援を受けました。

【課 題】

- ・中学校では、ボランティアの要請等が必要です。

③P T Aや地域住民から寄贈を受けた図書等の効果的な活用を図ります

【成 果】

- ・寄贈を受けた図書を学級文庫等として活用しました。

④家庭における読書の実態把握に努めます

【成 果】

- ・学力状況調査や児童アンケート等で子ども達の読書時間を調査しました。

【課 題】

- ・調査結果から課題を明確にし、取組に活かすことが必要です。
- ・保護者向けアンケート等の実施に向けた計画的な取組が必要です。

(2) 学校図書館における取組

①学校図書館図書標準の早期達成に努めます

【成 果】

- ・学校図書館図書標準の達成を目指し、計画的に図書を購入しました。

【課 題】

- ・早期に学校図書館図書標準 100%を達成するために、計画的に図書を購入することが必要です。

[5年間で蔵書冊数の推移]

	小学校		中学校	
	平成 25 年度	平成 29 年度	平成 25 年度	平成 29 年度
図書標準冊数	24,440 冊	24,840 冊	12,640 冊	11,680 冊
蔵書冊数	19,898 冊	22,687 冊	8,293 冊	10,212 冊
達成率	82.3% ※	91.9% ※	65.6%	87.4%

学校図書館図書標準冊数

公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、文部科学省が平成 5 年に定めたもの

※ 小学校の達成率は、各小学校（3 校）の達成率の平均です。

②児童・生徒のニーズに応じた蔵書を充実します

【成 果】

- ・選書会を実施することで、児童・生徒自身が読みたい図書を選び、学校図書館に配架することができました。

【課 題】

- ・幅広い分野の図書を選書会で用意することで、より多くの児童・生徒の参加を促し、広く意見を聞くことが必要です。

③団体借受、調べ学習の内容に合わせた借受など、町立図書館等との連携を図ります

【成 果】

- ・読み物だけでなく、調べ学習で利用する図書や道徳用の図書も団体借受しました。

【課 題】

- ・教科書の配列で各校同じ時期に指導するため、必要な図書が重複するときの工夫が必要です。

④学級文庫の充実に努めます

【成 果】

- ・一斉読書の時間に読む図書を学級文庫から選ぶ児童・生徒もおり、町立図書館の団体貸出の利用や寄贈図書の設置により学級文庫の充実に努めました。
- ・図書の充実に努めるため、学級文庫を入れ替えました。

【課 題】

- ・定期的に入れ替えをする等、児童・生徒のニーズに応じた学級文庫の設置が必要です。

⑤新刊紹介やテーマ図書の展示を実施し、情報提供に努めます

【成 果】

- ・新着図書やテーマ図書の設置だけでなく、図書だよりにも掲載し、情報提供しました。

【課 題】

- ・児童・生徒が読みたいと思うPOPの作成など、より一層の工夫が必要です。

⑥学習内容や発達段階に応じた図書資料の構成や整理方法、配架などを工夫し、利用しやすい図書館を目指します

【成 果】

- ・小学校の学校図書館では低学年の児童にも配慮し、絵本や低学年向きの物語は別置しました。また、別置図書や使用頻度の高い図書は、背表紙にイラストシールを貼る工夫を行いました。
- ・各学年の始めには学校司書が学校図書館の利用指導を行い、図書の配架について学ぶ時間を設けました。

【課 題】

- ・学習内容や発達段階に応じた図書を提供するため、図書の除籍や更新が必要です。

⑦図鑑や辞典など図書資料の活用の仕方など利用指導を充実します

【成 果】

- ・国語の単元に合わせて、学校司書と担任が連携して利用指導を行いました。

【課 題】

- ・各学年の年間指導計画を再検討し、内容や学年間の系統性を確認することが必要です。

⑧司書教諭を中心に、全教職員が図書館運営に関わることにより、教職員の意識の向上を図ります

【成 果】

- ・夏季休業中に学校図書館の整理を全教職員で実施しました。
- ・選書会への参加を教職員に対して促しました。

【課 題】

- ・学習指導等で多忙な教職員が司書教諭や学校司書と連携を図るための時間の確保が必要です。
- ・読書活動の目的やねらいについての共通理解を図ることが必要です。

⑨図書の貸出・返却・整理などの幅広い分野にボランティアの協力を得て、学校図書館運営の一層の充実を図ります

【成 果】

- ・読み聞かせだけでなく、図書の修理、整理等にもボランティアの協力を得ました。

【課 題】

- ・ボランティアの裾野の広がり及び継続的な支援の方策が必要です。

⑩学習コーナーの設置など、学習スペースの充実を図ります

【成 果】

- ・調べ学習をするための図書をまとめて配架する等、環境設定を行いました。

【課 題】

- ・学習に必要な図書や教科に関連した図書の充実が必要です。

3 地域社会における読書活動の推進

(1) 町立図書館における取組

児童資料の充実

①子どものニーズに応じた資料や学習に役立つ資料の充実に努めます

【成 果】

- ・絵本をはじめ、学校での朝読書や調べ学習に役立つ図書等、蔵書の充実に図りました。

【課 題】

- ・除籍や廃棄を効果的に行いながら、魅力ある蔵書のPRに努めることが必要です。

[蔵書冊数（児童書）]

平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
43,875 冊	44,490 冊	45,159 冊	45,610 冊	46,283 冊

②町の歴史やふるさとの民話を学ぶ紙芝居や絵本等の一層の活用を図ります

【成 果】

- ・館内展示や団体貸出を行い活用を図りました。

【課 題】

- ・「おはなし会」や学校等で活用されるためにさらなるPRが必要です。

③幅広い分野での資料の利用促進を図ります

【成 果】

- ・テーマ図書展示や「こどもの読書週間」等の特別展示の機会を利用し、幅広い分野での利用促進を図りました。

こども園・小・中学校との連携

①町立図書館の見学の機会を設けます

【成 果】

- ・小学生の図書館見学を受入れ、館内を案内し、図書館の仕事の説明を行いました。

【課 題】

- ・こども園児の見学の機会を設けることが必要です。

②資料の団体貸出・利用の促進を図ります

【成 果】

- ・ 図書館見学の機会に児童自らが読みたい図書を選び、団体貸出を行いました。
- ・ 学級文庫の充実のため、定期的に団体貸出を実施し、利用の促進を図りました。

【課 題】

- ・ 学習に役立つテーマの図書セットを準備する等、利用促進の工夫が必要です。

[団体貸出冊数]

平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
3,414 冊	4,047 冊	3,569 冊	3,854 冊	3,274 冊

③各種事業へ職員やボランティアの派遣協力を努めます

【成 果】

- ・ 学校等からの依頼により各種事業に町立図書館司書を派遣し、協力しました。

④関係機関が団体利用の推進を図れるよう、配送サービス等支援に努めます

【成 果】

- ・ 図書選定の協力、貸出返却日の調整等、団体貸出の支援を行いました。

【課 題】

- ・ 多量の図書の搬送のあり方について検討することが必要です。
- ・ 学校により団体利用に偏りがあるため、すべての学校で利用されるよう働きかけを行うことが必要です。

図書館内の環境整備

①案内表示や館内掲示を工夫し、明るく親しみやすい環境整備に努めます

【成 果】

- ・ 絵本を題材にしたポスターや折り紙作品などの掲示を行い、親しみやすい環境整備を行いました。

②資料の配架にあたっては、探しやすい工夫等、魅力ある書架の整備に努めます

【成 果】

- ・ 図書館システムの更新により、図書の配架場所を表示する等の充実を行いました。

ブックリスト等を通じた情報提供

①子どもの発達段階や関心のあるテーマに合わせたブックリスト等を通じて情報提供を図ります

【成 果】

- ・乳幼児健診の機会を利用して、おすすめの絵本冊子を配布しました。
- ・「子ども読書の日」「こどもの読書週間」の図書展示の機会にブックリストを作成し配布しました。

【課 題】

- ・乳幼児だけでなく、小・中学生へのおすすめの図書の情報提供が必要です。

各種取組の充実

①「おはなし会」や「おたのしみ会」等の事業内容の充実と啓発に努めます

【成 果】

- ・月1回の「おはなし会」や年2回の「おたのしみ会」の他に、「おりがみの会」を開催し、事業の充実を図りました。
- ・各種事業のチラシを作成し、関係機関への配布や掲示の依頼を行い啓発しました。

【課 題】

- ・「おはなし会」において、多くの参加が得られるよう工夫・啓発していくことが必要です。

[参加者]

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
おはなし会	135 人	181 人	157 人	131 人	98 人
おたのしみ会	150 人	225 人	183 人	201 人	155 人

講座や研修会の開催

①保護者等を対象に「読み聞かせ」や本について学ぶ講座や研修会の開催と啓発に努めます

【成 果】

- ・子どもの読書活動推進のための講座を開催し、絵本の読み聞かせ等について学ぶ機会を設けました。

【課 題】

- ・気軽に参加してもらえる講座や研修会を開催する工夫が必要です。

(2) ボランティアに関する取組

①町立図書館・学校等は、ボランティア等との連携・協力のもとに、子どもの読書活動の充実を図ります

【成 果】

- ・町立図書館・学校等はボランティアと連携し、読み聞かせ等を実施しました。

②ボランティアの資質向上や新たなボランティアの養成・確保を図るため、研修等の機会の充実に努めます

【成 果】

- ・町立図書館では子どもの読書活動推進のための講座を開催し、ボランティアの資質向上や養成を図りました。

[登録人数]

平成 30 年 10 月現在

図書館ボランティア	8 人
ブックスタートボランティア	7 人

【課 題】

- ・講座や研修への主体的な参加が求められます。

[参加者]

平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
33 人	28 人	37 人	36 人	29 人

4 効果的な読書活動の推進

(1) 関係機関等の連携・協力における取組

①乳幼児健診時や子育て支援事業等の場が、読書に親しむきっかけとなるよう連携の充実に努めます

【成 果】

- ・乳幼児健診や子育て支援事業において、絵本への興味・関心を広げ、読書に親しむきっかけとなるようおすすめの絵本を展示しました。また、パンフレットの配布を行う等、関係機関と連携を図りながら実施しました。

②町立図書館と学校等との連携・協力を一層深めるため、連絡会議を開催します
【成 果】

・連絡会議を開催し、教育委員会・学校・町立図書館との情報交換を図りました。

③町立図書館と府立図書館及び府内の公立図書館等との連携・協力の充実に努めます

【成 果】

・京都府図書館総合目録ネットワークを通じて、京都府立図書館及び府内の公共図書館との連携協力のもと、利用者の幅広いニーズに応えました。
・京都府立図書館の学校向けサービス等の情報提供を行い、小学校に活用してもらいました。

(2) 啓発・広報等に関する取組

ア 「子ども読書の日」「読書週間」等を中心とした取組

①こども園・学校・町立図書館・ボランティアが連携して、「読み聞かせ」や「ブックトーク」「本の展示」等の取組内容の充実に努めます

【成 果】

・こども園保育教諭と小学校教諭は互いに校種を越え、読み聞かせを行いました。
・町立図書館司書は小学校で「ブックトーク」を実施し、連携を図りました。

②「子ども読書の日」等の関連行事の取組に努めます

【成 果】

・小学校では読書の宿題や、読書記録をとる等、各校工夫した取組を「子ども読書の日」に行いました。
・町立図書館では、図書展示や「おたのしみ会」を開催し、「子ども読書の日」を周知啓発しました。

【課 題】

・恒常化した取組だけでなく、より読書意欲を高める工夫が必要です。

イ 情報提供・啓発

①町広報誌や町ホームページ等、各種メディアの活用により、読書活動に関する情報提供・啓発に努めます

【成 果】

・広報くみやまに町立図書館コーナーを設け、今月のテーマ図書・新着図書の紹介及び各種事業の案内等を掲載し、情報提供を行いました。
・町立図書館では平成27年度にホームページを開設し、「おはなし会」や「おたのしみ会」等の各種事業の案内を掲載しました。

【課 題】

- ・ ホームページを活用した情報提供等の充実を図ることが必要です。
- ・ 各機関は読書活動に関する情報を提供し、啓発していくことが必要です。

第3章 具体的な推進方策

乳幼児期から発達段階に応じた取組を展開し、読書への関心を高め、読書習慣の形成を図ることで、学年・年齢が上がるにつれて不読率が高くなる傾向の改善を図ることに努めていきます。

また、家庭、こども園・小・中学校、地域が連携し、以下のとおり具体的な取組を展開していきます。

1 家庭における読書活動の推進

(1) 家庭の役割と取組

子どもの読書活動を推進していくためには、初めて本に出会う場として「家庭」の果たす役割は大変大きいものがあります。乳幼児期から親子の温かなふれあいの中で、読書への関心や興味が育まれ、生涯にわたる読書習慣や想像力の形成に大きな影響力を及ぼします。乳幼児期の子どもにとって、家庭で絵本を読んでもらうことは、読書ということ以前に、大好きな人がやさしく語りかけてくれるという愛情を感じる至福の時間でもあります。

しかし最近では、インターネットの普及とともに、家庭でもスマートフォンやパソコンを扱い、大人も子どもも一人で過ごす時間が増え、言葉と言葉、人と人との関わりが希薄になってきています。そのような中で家庭での読み聞かせは、人と人とがふれあう貴重な時間として、ますます重要な意味を持つと思われます。日常生活の中において読書の重要性を保護者も充分理解し、共に取り組んでいくことが大切です。

凡 例

○は、第二次計画から継承する取組

◎は、第二次計画から拡充する取組

●は、新規取組

取 組

○家庭で読み聞かせ等を通じて、親子で本に親しみます。

関係機関は、読み聞かせ等が、多くの家庭で取り組まれるよう啓発します。

○家庭で保護者等も一緒に読書に取り組みます。

関係機関は、子どもと一緒に本を読んだり、本や読書について親子で話題にしたりする等、保護者等も一緒に取り組まれるよう啓発します。

- 家庭で様々な本に出会う機会を設定します。
関係機関は、子どもの身近に本を置いたり、一緒に図書館や書店に行ったりする等、家庭で取り組まれるよう啓発します。

(2) 子どもが読書に親しむ活動への支援

ア 読書活動への理解の促進

子どもが本に親しむ機会を増やすため、関係機関はより一層連携・協力し、それぞれの事業において、保護者等へ読書活動への理解と関心を深めてもらうことが大切です。そのため、子どもの読書活動の推進における家庭の果たす役割の重要性について、保護者等を対象とした事業の中で理解の促進を図っていきます。

取 組

- 「ブックスタート」事業が、絵本との出会いや楽しさの発見の機会となるよう、関係機関とボランティアが連携・協力して実施します。
- 子育て支援事業や母子保健事業等で、年齢や発達段階に応じた絵本の紹介や読み聞かせ等、本にふれる機会の提供に努めます。
- 子育て支援事業や母子保健事業等で、絵本や読み聞かせの相談に応じることで、読書の重要性を理解し、家庭で実践できるような情報交換の場となるよう努めます。

イ 子育て支援センター「あいあいホール」の役割と取組

子育て支援センター「あいあいホール」は地域の子育て支援の拠点として、子育て家庭に対する育児支援という大きな役割を担っています。

乳幼児期は家庭を基盤としながらも、子ども達同士が自由に遊びふれあう中で、様々な人と交流し成長していきます。保護者もまた、職員に子育ての悩みを相談することで、育児に活かし、親子の関係性を深めていくことが出来ます。

子育て支援センター「あいあいホール」では様々な事業を展開していく中で、親子で本とふれあうきっかけとなるよう啓発に努めていきます。

取 組

- ◎様々な本に出会う機会の設定に努めます。
図書コーナーの充実を図ります。また、町立図書館と連携し「絵本を楽しむ日」等を実施することで、親子が様々な本に出会う機会の充実に努めます。

2 こども園・小・中学校における読書活動の推進

(1) こども園・小・中学校の役割と取組

こども園は、子ども達が絵本や物語などに親しみ、読書の楽しさと出会うために、本に興味を持ち、想像する楽しさを十分味わえる環境をつくる役割を担っています。

また、小・中学校は、児童・生徒の発達段階に応じて読書習慣の定着化を図れるよう、児童・生徒の読書意欲の向上、読書に親しむ環境の整備に努める役割を担っています。

今後もこども園・小・中学校における一貫した教育の中で、継続して読書活動を推進していけるよう努めていきます。

ア こども園

取組

- 親子で読書に取り組めるよう、絵本の貸出を行います。
- 絵本コーナーの展示の工夫や内容・資料のより一層の充実を図ります。
- 保育教諭は、教材研究及び研修等を通じて資質向上に努めます。
- 読み聞かせ等に、お話ボランティアの支援を受けます。
- 園児の町立図書館利用の促進に努めます。
- ◎様々な本に出会う機会の設定に努めます。
読み聞かせの際、園児が読書への興味がわくような選書を心がけるとともに、様々な本と出会えるよう読み聞かせの機会の充実に努めます。
- 保護者に本や読書に興味・関心を持ってもらえる工夫をします。
スマートフォン等の普及により、本や読書に対して親世代も興味・関心が薄れてきており、保護者に興味を示してもらえるような取組を工夫します。

イ 小・中学校

取組

①全校一斉読書

- 一斉読書（朝読書）等、一日の学校生活の中で定例的に読書をする時間を設け、読書の習慣化を図ります。
- ◎読書の質を高めるため、各学年の発達段階にあった選書の基準等を設けます。
- 一斉読書以外の読書活動にもつながる働きかけを行います。

②環境整備

- 子どもの興味や関心に応える魅力的な学校図書の実充に努めます。
- ◎図書を読みたくなる学校図書館を目指し、掲示物等で読書の意欲を高めると共に、図書を見つけやすい案内の工夫に努めます。
- ◎夏季休業前に貸出可能冊数の上限を増やす等、読書環境を整えます。

③読書への啓発

- 読書に対する意欲を高める取組を充実します。また、保護者等にも図書への関心を高めてもらえるよう働きかけます。
- 学年に応じた課題図書や「おすすめの本」を提示し、発達段階にあった図書を選び、読めるような工夫をします。
- ◎図書だよりの発行、委員会活動との連携等、読書案内や読書に関する情報を提供します。

④授業との関係

- 「おすすめの本」の紹介や心に残った図書の感想の発表等を通じて、言語力の育成に努めます。
- ◎学習に関する図書を指導過程で計画的に位置付け、それらの図書の紹介や読書感想等に取り組み、活用します。
- ◎学習に活用できる「図書リスト」を作成し、授業で紹介するなど、図書の活用場面を増やします。

⑤教職員の研修等

- 読書に関するさまざまな手法や効果的な図書活用等の研修に取り組みます。
- ◎読書の重要性について共通理解を図るため、すべての学校で計画的に研修を実施するよう努めます。

⑥各校の図書委員会等、児童・生徒が主体となる活動

- 読書月間及び月間の目標冊数の設定などの取組を行います。
- 新刊本の紹介、購入図書希望調べ等、図書委員会活動の実充を図ります。

⑦PTA・地域等との連携

- PTAと連携して、読書の大切さ等を啓発します。
- 読み聞かせ等には、地域のボランティアや町立図書館司書の積極的な支援を受けます。
- PTAや地域住民から寄贈を受けた図書等の活用を図ります。
- 家庭における読書の実態把握に努めます。

(2) 学校図書館の役割と取組

学校では、児童・生徒が自ら考え、主体的に判断し、行動できる資質や能力等の「生きる力」を育むため、各教科、特別活動、総合的な学習の時間等において学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図った教育活動を展開することが必要です。

そのため、学校図書館には、児童・生徒の主体的な学習活動を支援し、教育課程の展開に寄与する学習センターとしての役割と、望ましい読書習慣の形成と豊かな心を育むための読書センターとしての役割、そして児童・生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成する情報センターとしての役割が求められています。

これらの役割を果たすため、施設や図書館システムの有効活用を図りながら、司書教諭や学校司書を中心に教職員が連携し、取組の推進に努めていきます。

取 組

①資料

- 児童・生徒のニーズに応じた蔵書の充実を図ります。
- 団体借受、調べ学習の内容に合わせた借受など、町立図書館との連携を図ります。
- ◎学校図書館図書標準の達成を目指し、達成後は継続的な蔵書の更新に努めます。

②施設・設備

- 学習コーナーの設置など、学習スペースの充実を図ります。
- 新刊紹介やテーマ図書の展示を実施し、情報提供に努めます。
- 学習内容や発達段階に応じた図書資料の構成や整理方法、配架などを工夫し、利用しやすい学校図書館を目指します。
- ◎学級文庫の充実、管理に努めます。

③推進体制

- 図鑑や辞典などの図書資料の活用の仕方など利用指導を充実します。
- 図書の貸出・返却・整理などの幅広い分野にボランティアの協力を得て、学校図書館運営の一層の充実を図ります。
- ◎司書教諭を中心に学校司書と連携し、教職員が学校図書館運営に関わることにより意識の向上を図ります。

3 地域社会における読書活動の推進

(1) 町立図書館の役割と取組

町立図書館は、気軽に利用でき、読書の楽しさにふれ、知りたい情報を得ることができる身近な地域の図書館として、資料の充実をはじめ様々な取組の中で子どもの読書活動を推進していくうえでの機能を十分発揮し、家庭や学校等の取組を支援する役割を担っています。

その役割を果たすため、町立図書館司書は、研修等を通じて資質の向上を図り、様々な角度から子どもたちの読書への興味や関心を引き出すための取組に努めていきます。

取 組

①児童資料の充実と活用

- 子どものニーズに応じた資料や学習に役立つ資料の充実に努めます。
- 町の歴史やふるさとの民話を学ぶ紙芝居や絵本等の一層の活用を図ります。
- ◎魅力ある蔵書のPRに努め、幅広い分野での資料の利用促進を図ります。

②こども園・小・中学校との連携

- 町立図書館の見学の機会を設けます。
- 各種事業へ町立図書館司書の派遣協力に努めます。
- ◎図書館の団体貸出の利用促進を図ります。
- ◎関係機関が団体利用の推進を図れるようニーズに応じた支援に努めます。

③図書館内の環境整備

- 案内表示や館内掲示を工夫し、明るく親しみやすい環境整備に努めます。
- 資料の配架にあたっては、探しやすい工夫等、魅力ある書架の整備に努めます。
- すべての子ども達が読書活動を楽しめるよう環境整備に努めます。

④ブックリスト等を通じた情報提供

- 子どもの発達段階や関心のあるテーマに合わせたブックリスト等を通じて情報提供を図ります。

⑤各種取組の充実

- 「おはなし会」や「おたのしみ会」等の事業内容の充実と啓発に努めます。

⑥講座や研修会の開催

- 保護者等を対象に「読み聞かせ」や本について学ぶ講座や研修会の開催と啓発に努めます
- ◎ボランティアの資質向上や新たな読書ボランティアの養成・確保を図るため、研修会の機会の充実に努めます。

(2) ボランティアとの連携・協力

ボランティアは、子どもの読書活動を推進するため、町立図書館や学校等での読み聞かせやおはなし会等、子どもが読書に親しむ機会を提供するように努めます。

また、こども園・小・中学校・町立図書館は、ボランティアとの連携・協力のもとに、子どもの読書活動の充実を図っていきます。

取 組

- 町立図書館はボランティアの選書・読書相談などに応じ、ボランティア活動の支援に努めます。

4 効果的な読書活動の推進

(1) 関係機関等の連携・協力

子どもの読書活動を推進するためには、家庭・学校・地域が一体となって取り組むことが必要です。関係機関等は連携・協力を図りながら推進していきます。

取 組

- 子育て支援事業や母子保健事業の場が、読書に親しむきっかけとなるよう連携の充実を努めます。
- 町立図書館と府立図書館及び府内の公共図書館等との連携・協力の充実を努めます。
- ◎教育委員会と学校、町立図書館との連携・協力を一層深めるため、連絡会議を開催します。

(2) 啓発・広報の推進

ア 「子ども読書の日」「読書週間」等を中心とした取組の推進

子どもの読書活動について理解と関心を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めることを目的とした「子ども読書の日」等の趣旨に沿って、町立図書館や学校等ではさまざまな取組を行っています。これらの実績をもとにさらに取組の充実を努めます。

取 組

- こども園、小・中学校、町立図書館、ボランティアが連携して、読み聞かせやブックトーク、本の展示等の取組内容の充実に努めます。
- 子ども読書の日等の関連行事の取組に努めます。

イ 情報提供・啓発

子どもの読書活動を効果的に推進するためには、地域住民をはじめ子どもの読書活動に関わる関係機関・団体等が多様な取組等の情報に接し、活用できるような情報の提供及び啓発に努めるとともに、情報交換が活発に行われるよう働きかけます。

取 組

- ◎町広報誌やホームページ、各種メディアの活用等により、読書活動に関する情報提供・啓発に努めます。

(3) 推進体制の整備

本計画を効果的に推進するために、関係機関団体等の連携・協力関係をさらに強化し、家庭、学校、地域が一体となって取組を進めます。

また、今後も読書活動の推進に関する情報の収集、提供を図るとともに、読書活動の推進体制の整備に努めます。